

<Hib(ヒブ)とは>

Hib(ヘモフィルス・インフルエンザ菌b型は、ヒトの鼻やのどにいて、体力や抵抗力が落ちたときに、髄膜炎、肺炎、中耳炎といった感染症を起こす病原細菌のひとつです。特に乳幼児の髄膜炎の大きな原因となっています。2010年以前はHibによる髄膜炎が、年間約400人発症し、約11%が予後不良と推定されていました。また生後4か月～1歳までの乳児が過半数を占めていました。現在はHibワクチンが普及し、侵襲性Hib感染症(髄膜炎、敗血症、肺炎など)は激減しました

<ワクチンの効果>

インフルエンザ菌は7種類に分類されますが、重症例は主にb型のため、ワクチンとしてこのb型が使われています。欧米ではワクチン導入後、侵襲性Hib感染症は劇的に減少し、我が国でも定期接種として導入後、同様に減少しています。世界110か国以上で導入され、その効果は高く評価されています。

<接種後の副反応>

主な副反応は、局所の症状で、発赤44.2%、腫れ18.7%、硬結(しこり)17.8%、疼痛(痛み)5.6%で、全身反応は発熱2.5%、不機嫌14.7%、食思不振8.7%などが認められています。気になる症状等が見られましたら接種医にご相談ください。

1 持参するもの

Hib(ヒブ) 予防接種予診票(松戸市交付) 予防接種番号 母子健康手帳 健康保険証など住所が確認できるもの
子ども医療費助成受給券

★「予診票(無料券)」に必要事項を記入する際は、ボールペンを使用してください

2 受ける年齢

・生後2か月～5歳未満(5歳になると無料での接種はできません)
※標準的には、生後2か月～生後7か月未満に接種を開始する

3 接種回数と接種間隔 接種開始年齢により接種回数が異なります。

① 生後2か月以上7か月未満で開始

初回接種3回

27日(医師が認めた場合20日)以上

標準的には56日までの間隔をおいて3回



追加接種1回

初回接種(3回)終了後から、7か月～標準的には13か月までの間隔をおいて1回



○初回接種は生後12か月になるまでに3回終了させること

② 生後7か月以上12か月未満で開始

初回接種2回

27日(医師が認めた場合20日)以上

標準的には56日までの間隔をおいて2回



追加接種1回

初回接種(2回)終了後から、7か月～標準的には13か月までの間隔をおいて1回



○初回接種は生後12か月になるまでに2回終了させること

③ 1歳以上5歳未満で開始

初回接種1回のみ



※できるだけ標準的な接種開始期間(①)に接種を開始しましょう

※確実な免疫をつかるため、標準的な接種間隔で接種しましょう

※①・②で接種を開始しても、生後12か月になるまでに初回接種の規定回数が行えない場合は、接種回数等が異なりますので接種医にご相談下さい。

4 接種方法

- ・松戸市と契約をしている医療機関で受ける個別接種です。(別紙医療機関一覧表参照)
- ・契約している医療機関以外では「予診票(無料券)」は使用できません。
- ・転出等で松戸市に住民登録がない場合は、松戸市発行の「予診票(無料券)」は使用できません。

5 受けることができない人

- (1)明らかに発熱(通常37.5℃以上をいいます)のある人
- (2)重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人(急性で重症な病気で、薬を飲む必要のあるお子様は、その後の病気の変化もわからないことから、その日は接種を受けないのが原則です。)
- (3)ヒブワクチンの成分または破傷風トキソイドによってアナフィラキシーを起こしたことがある人

アナフィラキシーというのは通常約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。汗がたくさん出る、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出るほか、はきけ、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続きショック状態になるようなはげしい全身反応のことです。

- (4)免疫抑制剤、副腎皮質ホルモン剤を服用している人
- (5)その他、医師が不適当な状態と判断した場合

6 受ける前に医師とよく相談しなくてはならない人

★下記に該当する人はかかりつけの医師と相談し、必要に応じて「**診断書または意見書**」をもらってから接種に行きましょう。

- (1)心臓病・腎臓病・肝臓病・血液の病気や発育障害などで治療を受けている人
- (2)前に予防接種を受けたとき、2日以内に発熱、発疹、じんましんなどアレルギーと思われる異常がみられた人
- (3)今までにけいれん(ひきつけ)を起こしたことがある人
- (4)過去に中耳炎や肺炎などによくかかり、免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人、又、近親者に先天性免疫不全症の者がいる人
- (5)ヒブワクチンの成分または破傷風トキソイドによってアレルギーを起こすおそれがある人
- (6)薬の投与を受けて皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある人
- (7)麻しん(はしか)は治ってから4週間、風しん、おたふくかぜ、水ぼうそうなどは治ってから2~4週間経過していない人、いずれの場合も一般状態を主治医が判断し、決定します

7 接種上の注意

- (1)予防接種を受けた後30分間は、医療機関でお子様の様子を観察するか、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。
- (2)接種後生ワクチンでは4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意しましょう。
- (3)入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- (4)当日は、激しい運動は避けましょう。

※ヒブワクチンはウシ由来成分が含まれていますが、製造工程において、加熱等適切な処理が行われております。一定の安全性が確保されており、諸外国においてワクチン接種による伝達性海綿状脳症(TSE)がヒトに伝播したとする報告はありません。

8 予防接種による健康被害救済制度

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受かることができます。

◎何か気になる症状が出た場合は、医師の診察を受けてください。